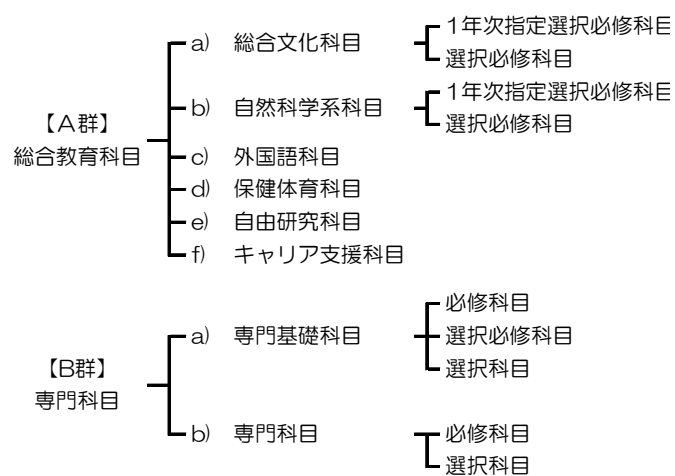


《2016年(平成28年)度入学生用》

## 建築学部

### 授業科目履修課程表

#### ◆教育課程◆





## 建築学部で何を学ぶか

建築学部は、工学をはじめとする人文科学、社会科学や芸術などの幅広い学問分野の基礎教育と充実した教養教育を実施している。学生諸君が人間と社会、科学技術を多様な視点から捉える目を養うためである。そして、建築学部は、学生それぞれの個性を重視して専門的な能力を引き出し、実践的かつ総合的な教育により伸ばすことで、建築と都市環境の創造・再生、および、持続型社会を支える科学技術の発展を中核的に担う専門家を養成する。そのための素養を十分に身につける教育プログラムも準備している。

また、新たに形成されつつある建築関連の諸分野に対し、学生が今後求められる専門家となるためには、現実の建築に関係する現象を正しく認識する観察力や分析力が必要不可欠となる。そのため、建築学部は、学生が実験・実習・演習などによる課題解決の経験を通じ、これらの素養を十分に養えるよう図っていく。さらに、実社会における建築の設計者や技術者としての役割を体感させることも重視し、学生にインターンシップによるものづくりの現場への参加機会や、実社会で活躍している講師による特別講義の受講機会などを設けている。学生は、それにより、広範な知識を身につけ、社会において果たすべき建築の専門家としての役割を理解することができるようになるだろう。

建築学部は、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科による3学科体制により運営されている。

まちづくり学科では、地球規模の大きな社会状況の変化のもとで、これから我々がもっと快適に住み続けられるための「まち」の新しい姿について学生自身が考え、身近な「まち」に関わる様々な視点（つくり手・住まい手の両方からの視点）を獲得する。多角的な「まち」の将来像を構想し、実現していく素養を身につけて、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得する。

建築学科では、安全で快適な生活の場の構築を目的として、大量生産・大量消費時代の新規供給中心の建築ではなく、安全で環境負荷の少ない生活環境を実現する建築の考え方を教育の中心に据えている。学生は、これからの新しい建築のあり方を規定するための高度な要素技術（計画、構造、設備、生産）を身につけ、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得する。

建築デザイン学科では、単に美しいだけでなく、機能的にも優れ、快適で使いやすい、人間のための建築デザインとは何かを学生自身が考えて、新しいデザインのあり方を創造・発信することを目指す。さらに、環境への配慮や人間の生活の質（Quality of Life）の向上も考慮した建築の設計・提案を行う能力を身につけて、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得する。

このように、学生が、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科のいずれかの就学経験を通じて、卒業後に、新時代の課題を適切に判断し、身につけた専門知識・技術を生かす指導的な役割（コーディネーターやマネジメントなどの役割）を果たせるような仕事に就くことを、建築学部としては目指している。活躍する分野としては、建築の基本分野となる建築設計、建築施工全般などに加えて、資源や環境の保全、持続可能なまちづくりや都市再生、防災、高齢社会に対応した生活環境づくりなど、いわゆる工学分野の建築学には含まれてこなかった幅広い専門分野を想定している。

さらに、本学大学院進学により、多様な研究分野が同じ学部の中に共存しているメリットを最大限に活かしながら、学生自身が複合的な新しい発想に基づく研究領域の創造を積極的に進めることを期待している。こうして、学生は新しい得意分野の位置づけを確立しながら、専門性を高めることを目指せるだろう。



《2016年(平成28年)度入学生用》

## 建築学部

# 各 学 科 共 通

- 【A群】  
総合教育科目
- a) 総合文化科目
  - b) 自然科学系科目
  - c) 外国語科目
  - d) 保健体育科目
  - e) 自由研究科目
  - f) キャリア支援科目

### 【A群】総合教育科目

#### a) 総合文化科目

##### ■総合文化科目の意義

本学は工科大学であるが、すべての学問と同じく、工学もそれだけで独立したものではなく、他のさまざまな学問や、歴史や社会との複雑な関連の中ではじめて成り立つ。とりわけ今日では、科学技術や産業のあり方について、さまざまな角度からの再検討、再評価がおこなわれ、全人類的な視野に立った新しい展望の開拓が期待されている。したがって大学に学ぶ者は、狭い意味での専門分野だけではなく、できるだけ多くの学問分野に触れることが望まれる。広い知識、多様な関心、柔軟な感性こそが、専門領域での真に創造的な仕事や、現実社会での的確な判断力、責任ある態度を生み出すのである。

総合文化科目は、このような意味で専門教育を外側から支え、研究者として、技術者として、社会人として、できるだけゆたかな可能性と創造性をもった人間の形成に役立つことをめざして開設される。まず1年次の「建築ロジカルライティングⅠ」「建築ロジカルライティングⅡ」「総合文化アカデミックスキル」では、大学生としての主体的な学びを実践してゆくために必要不可欠な力を身につけ、将来を見据えつつ自らのアイデンティティの確立をはかってゆく。また、「美術A」「美術B」では建築を学ぶために必要なデッサン力、イメージ表現力を理論と実技の両面から身につけてゆく。さらに2年生以降、いわゆる人文科学、社会科学を中心として、広大な「知」の世界への入口となるよう集められた科目群の中から、自らの意志で科目を選択し、学びを深めてゆくことになる。

#### b) 自然科学系科目

##### ■カリキュラムの基本理念

現代の科学技術は自然科学の大きな体系の上に成立している。科学技術の深い内容を理解するためには、自然科学との関係を十分に知ることが重要であり、その自然科学の基礎について勉強する。基礎・教養教育部門の教員が責任を持って教育にあたる。

講義科目の「数学」、「物理」、「化学」、「生物」はどのような分野に進む人にとっても重要な基礎知識である。これらについて広い視野を持つことは、各人が独自の道を切り開く上で大きな力になると信ずる。単に道具として理解す

るのではなく、自然現象をどのように捉え、表現しようとしているのか、また結果としてどんな描像を得ているかを理解してもらいたいと考えている。

また、現代を生きていく上で不可欠となったコンピュータの基礎について学ぶ「情報処理」の講義も用意しており、これをマスターしてのち、さらに専門的な知識を身につけて欲しい。

## c) 外国語科目

### ■カリキュラムの基本理念

新しい国際化時代に対応し、幅のあるコミュニケーション技能を養うために、体系的かつ柔軟性を持たせたカリキュラムを編成している。

具体的には、卒業条件の8単位のうち、6単位は必修英語の科目で取得し、残り2単位は選択必修の科目から取得する。選択必修科目には、「応用英語」として Intensive English Course（夏期語学研修・春期語学研修）・Communicative English（コミュニケーション英語）・Mass Communication English・TOEICの英語研究等を設置し、また第二外国語として「ドイツ語」・「フランス語」・「中国語」・「中国語集中講座」（北京航空航天大学夏期語学研修）・「ロシア語」を設置している。

必修の英語科目は、総合的な力を養うべく、言語諸技能の有機的な教育を目指す。それぞれ次のように重点を置いている。つまり、「Introduction to Communicative English I/II」は音声言語に焦点をあてたコミュニケーションスキルを、「Basic Reading Skills I/II」は読みを通じた批評力を、「Basic Writing Skills I/II」は英語での文章作成スキルを学習し、英語による受信型・発信型両方のコミュニケーションスキルを養う。

また、選択必修の「応用英語」では、少人数クラスを原則とし、学生の積極的参加を求めている。

情報化時代の中で、外国語運用能力の重要性はますます高まってきている。積極的な語学学習の場としてもらいたい。

## d) 保健体育科目

### ■カリキュラムの基本理念

今日の技術革新による生活環境の機械化・自動化は、身体活動の著しい省力化をもたらす。動かすことによって機能する人間の身体を蝕んでいる。また科学技術の急速な発展は、一方で地球環境の加速度的な変動をもたらす。数百万年もの長い歴史の中で、ゆっくりと進化を続けてきた人類に脅威をもたらしている。次々と出現するこうした健康破壊の要因は、医学のめざましい進歩にもかかわらず人類を混迷の淵に追いやるかのようなものである。このような時代に生きる本学学生には、個人的立場からばかりでなく、将来の社会的責任を担うという立場から、「身体」と「健康」という視点において地球環境や人間生活のあり方に関心を向けて欲しい。

また新入生の多くは、受験のため身体的活動を抑えてきたために、運動不足とストレスの蓄積を痛感していることと思われる。そこで初年次は運動やスポーツの実践を通して、人間にとってファンダメンタルな欲求の充足を図り、低下した体力の早期回復とともに健全な心身の獲得を目指してもらいたい。また折に触れて身体・運動・健康等に関する最新の理論を学んだり、体力の測定と分析などを行って、自らが健康なライフスタイルを設計し、実践することのできる自己管理能力を養ってもらいたい。このようなねらいから、1年次通年で「身体・運動科学演習」を開講する。さらに今日および将来の社会に生きる学生が、健康で文化的な生活を送るためにも、また自己実現の良きパートナーとして、スポーツを生活の中に取り入れて欲しい。しかしながら建築学部では設計課題や実験等に追われ、意欲があってもクラブ等で自主的に活動する時間的ゆとりを持っていない学生が多い。このような状況に対応し、2年次以降4年次まで各自の履修計画に合わせて自由に選択できるような多様な「生涯スポーツ」を開講する。（詳細は「保健体育科目履修の手引」を参照。）

## e) 自由研究科目

### ■自由研究科目の意義

カリキュラムは学問の体系を踏まえて構成される。しかし、それらは歴史的な発展過程を反映した便宜的なものに

過ぎない。我々の対象とする世界は、もっと広く相互に重なりあい、学問の境界は曖昧である。そのような視点から、柔軟な発想でテーマを設定し通常の授業とは違った味付けで、少人数教育を試みるのがこの科目である。諸君の興味のおもむくまま、実験を通し、あるいは原書講読を通して、学ぶことの楽しみをくみ取って欲しいと考えている。豊富なメニューが用意してあるので、積極的に参加し、通常の講義では得られない体験を積んで欲しい。この科目群で履修した単位も、卒業に必要な単位に算入される。

#### **f) キャリア支援科目**

##### **■キャリア支援科目の意義**

大学で学んだことを社会で生かしていくためには、在学中から将来を見据え、自分自身の資質・能力を向上させてゆくことが大切である。2年生後期に受講できる「キャリアデザイン」は、企業講演等を通して自らの職業観を醸成させると共に、社会と接する際に必要となる自己表現力等の能力を身につけることを目標としている。また、この科目は3年次開講科目である「学外研修」(インターンシップ)の導入科目としても位置づけられている。





外国語科目

○印＝必修科目 △印＝選択必修科目

区分	種別	授業科目 科目名	単位数	標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)				教職	学位授与の方針					備考				
				1年		2年			3年		4年		1		2	3	4	5
				前	後	前	後		前	後	前	後						
【A群】総合教育科目 c 外国語科目	必修英語	○ Basic English I	1	1					●	○		◎				夏期集中または春期集中		
		○ Basic English II	1	1					●	○		◎						
		○ Basic Communication I	1	1					●	○		◎						
		○ Basic Communication II	1	1					●	○		◎						
		○ Basic Academic English I	1		1				●	○		◎						
		○ Basic Academic English II	1		1				●	○		◎						
	応用英語	△ Intensive English Course	2	☆	☆	☆	☆			○		◎						
		△ Presentation in English Basic I	1				1	1		○		◎						
		△ Presentation in English Basic II	1				1	1	1	○		◎						
		△ Presentation in English Advanced I	1				1	1		○		◎						
		△ Presentation in English Advanced II	1				1	1		○		◎						
		△ Writing in English Basic I	1				1	1		○		◎						
		△ Writing in English Basic II	1				1	1		○		◎						
		△ Writing in English Advanced I	1				1	1		○		◎						
		△ Writing in English Advanced II	1				1	1		○		◎						
		△ Communication in English Basic I	1				1	1		○		◎						
		△ Communication in English Basic II	1				1	1		○		◎						
		△ Communication in English Advanced I	1				1	1		○		◎						
		△ Communication in English Advanced II	1				1	1		○		◎						
		△ Communicative English A	2	1	1					○		◎						
		△ Communicative English B	2	1	1					○		◎						
		△ Communicative English C	2				1	1		○		◎						
		△ Communicative English D	2				1	1		○		◎						
		△ Critical Reading	1				1			○		◎						
		△ Reading for Discussion	1				1			○		◎						
		△ Technology in Society	1				1			○		◎						
		△ Cultural Systems	1				1			○		◎						
		△ Globalization	1					1		○		◎						
		△ English Lecture Series/Workshops	1					注7)		○		◎						
		△ Conducting, Writing, and Presenting Research in English	1						1	○		◎						
	△ Mass Communication English A	2			1				○		◎							
	△ Mass Communication English B	2			1	1			○		◎			本年度休講				
	△ TOEICの英語研究 I	2	1	1	1	1			○		◎			八王子・新宿開講				
△ TOEICの英語研究 II	2	1	1	1	1			○		◎			八王子・新宿開講					
第二外国語	△ ドイツ語 I	2		1	1	1			◎									
	△ ドイツ語 II	2			1	1			◎									
	△ フランス語 I	2		1	1	1			◎									
	△ フランス語 II	2			1	1			◎									
	△ 中国語 I	2		1	1	1			◎									
	△ 中国語 II	2			1	1			◎									
	△ 中国語集中講座	2		☆	☆	☆			◎					夏期集中				
	△ ロシア語 I	2		1	1	1			◎									
△ ロシア語 II	2			1	1			◎										

注1) 第二外国語は、2年次から履修できる。

注2) 第二外国語のIIは、Iの単位を取得した者のみ受講できる。

注3) 応用英語に関しては「標準履修学年と毎週授業時限数」欄の「1」印の位置は、時間割上の主たる対象者を示すが、他の学年の受講を妨げない（「授業時間割表」及びキューポート参照）。

注4) 応用英語の「TOEICの英語研究」に関しては、履修希望者を最初の授業時にテストにより「TOEICの英語研究 I」（レベル1）と「TOEICの英語研究 II」（レベル2）に振り分ける。設置クラス数が限られている目下の状況から、原則として「TOEICの英語研究 I」または「TOEICの英語研究 II」のいずれかしか履修できない。

注5) Intensive English Course、及び中国語集中講座は、3週間程度の海外語学研修である。申し込み方法等は別途掲示等によって案内する。

注6) 「Reading for Discussion」は「Critical Reading」を履修したもののみ受講を認める。

注7) English Lecture Series/Workshopsは3、4年次の2年間にわたって履修する。

注1)

夏期集中

本年度休講

八王子・新宿開講

八王子・新宿開講

保健体育科目

○印＝必修科目 無印＝選択科目

授業科目				標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)				教職	学位授与の方針					備考				
区分	種別	科目名	単位数	1年		2年			3年		4年		1		2	3	4	5
				前	後	前	後		前	後	前	後						
【A群】	総合教育科目 d)保健体育科目	○ 身体・運動科学演習	2	1								●	○		○	◎		
		生涯スポーツA	1			1または1	1または1	1または1					○		○	◎		*2～4年対象
		生涯スポーツB	1			1または1	1または1	1または1					○		○	◎		*2～4年対象
		生涯スポーツC	1					1または1	1または1				○		○	◎		*3・4年対象

※ 詳細については「保健体育科目履修の手引」を参照すること。

※ 生涯スポーツCは、3年次以後の履修となる。

自由研究科目

無印＝選択科目

授業科目				標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)				教職	学位授与の方針					備考						
区分	種別	科目名	単位数	1年		2年			3年		4年		1		2	3	4	5		
				前	後	前	後		前	後	前	後								
【第I群】	総合教育科目 d)自由研究科目	歴史と人物	2		1		1		1		1		○		◎	○		<平成28年度休講>		
		都市文化研究	2	1		1		1		1		1		○		◎	○		<平成28年度休講>	
		哲学書を読む	2		1		1		1		1		1		○		◎	○	<平成28年度休講>	
		科学技術と倫理を考える	2	1		1		1		1		1		○		◎	○			
		国際問題の学際的研究	2		1		1		1		1		1		○		◎	○		
		現代社会論	2	1		1		1		1		1		○		◎	○			
		比較社会文化研究	4		1		1		1		1		1		○		◎	○		
		経済学説の研究	2		1		1		1		1		1		○		◎	○		
		ロジカルライティングⅠ	2	1		1		1		1		1		○		◎	○		<平成28年度休講>	
		ロジカルライティングⅡ	2		1		1		1		1		1		○		◎	○	<平成28年度休講>	
		英語によるメディア研究とビデオ制作	4		1		1		1		1		1		○		◎	○	<平成28年度休講>	
		英検準一級・二級の英語研究	4		1		1		1		1		1		○		◎	○	<平成28年度休講>	
		アメリカ言語文化事情	4		1		1		1		1		1		○		◎	○	<平成28年度休講>	
		現代物理の世界	2		1		1		1		1		1		○		◎	○	<平成28年度休講>	
		教師としての実践的力量的形成	2						1		1		1		○		◎	○	<平成28年度休講>	
		教育者のための遊びの指導法	2		1		1		1		1		1		○		◎	○		
		教育実践記録を読む	2		1		1		1		1		1		○		◎	○	<平成28年度休講>	
		教育問題を考える	2	1		1		1		1		1		○		◎	○			
		機械の技術史	2		1		1		1		1		1		○		◎	○	<平成28年度休講>	
		複雑系の科学	2		1		1		1		1		1		○		◎	○	<平成28年度休講>	
ロシア語で学ぶ理工学	2								1		1		○		◎	○	<平成28年度休講>			

キャリア支援科目

無印＝選択科目

授業科目				標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)				教職	学位授与の方針					備考				
区分	種別	科目名	単位数	1年		2年			3年		4年		1		2	3	4	5
				前	後	前	後		前	後	前	後						
【A群】	総合教育科目 f)キャリア支援科目	キャリアデザイン	2				1						○		◎	○		
		日本経済分析入門	2					1		1			○		○	◎		
		事業運営の基礎知識	2						1		1		○		○	◎		
		中国の社会と文化	2					1		1		○		○	◎			